# 本願寺新報
hongwanji journal

**6月20日（金曜日）**

毎月1日・10日・20日発行

発行所　本願寺新報社
京都市下京区堀川通花屋町下ル　浄土真宗本願寺派（西本願寺）
〒600-8501　本願寺出版社内
電話 075(371)4171(代)／FAX075(341)7753



創業1400有余年の寺社建築技術
金剛組
https://www.kongogumi.co.jp/
フリーダイヤル 0120-054-731


## 今号の紙面


48歳の誕生日迎えられご門主…2

ひと　2面

龍谷ミュージアム館長・福山泰子さん


みんなの法話……………………4
学ぶ親鸞聖人　ご生涯×教え…5
お釈迦さまの前世物語…………3
季節の養生と薬膳………………3
本願寺インスタ倶楽部…………3
読者のひろば（俳壇・歌壇）…7

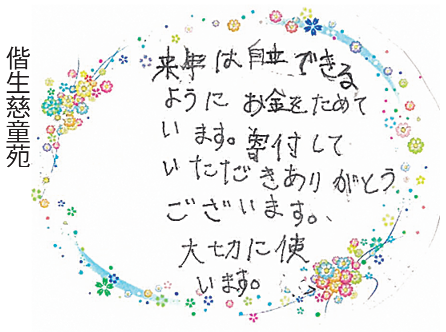

トップニュース

# 子どもたちの笑顔のために募金

# おれの手紙

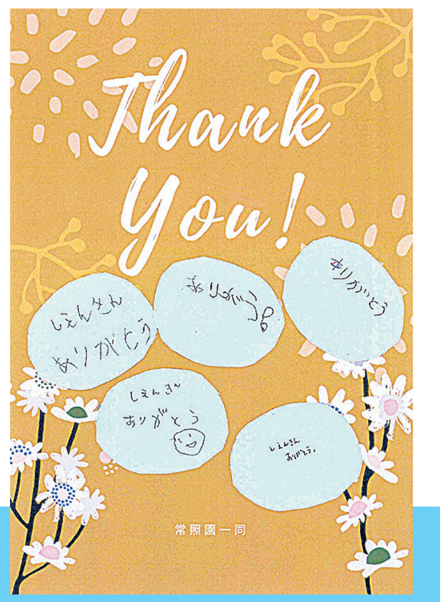
## 全養本派クラブ加盟園から届く

宗派・重点プロジェクト実践目標「〈貧困の克服に向けて～Dāna for World Peace～〉―子どもたちを育むために―」の一環として取り組む「子どもたちの笑顔のために募金」には、昨年２月から１年間で1808万819円寄せられた。４月にはその一部を、浄土真宗本願寺派全国児童養護施設連絡協議会（＝全養本派クラブ）加盟の全15園に届けた（在園生514人に各１万円、就職や進学で施設を卒園した50人に各３万円の計664万円）。全養本派クラブへの支援は６回目。全養本派クラブの子どもたちから、「ご寄付いただいたみなさまへ」と、このほど感謝の寄せ書きや手紙などが本山に届いた。その一部を紹介する。　（募金方法は２面）




皆生慈童苑

防府海北園




大阪西本願寺常照園

### 卒園生

■私は幼少期からずっと施設で暮らしてきました。たくさんの人たちから助けてもらって今があります。退所という現実に不安でいっぱいですが、感謝を忘れず成長していきたいです。支援金は大切に使わせていただきます。本当にありがとうございました。（あかつき寮）

■4月から大学生になり、ひとり暮らしを始めました。家事や料理など自分で行わなければならず、大変なことも多いですが、今後の生活を楽しみながら過ごしていきたいと思っています。施設にいる時だけでなく、卒園した後も支援していただき本当にありがとうございます。（生駒学園）

■4月から社会人になりました。研修は東京であったのですがわからないことばかりで大変です。施設にいた時はたくさんの人に助けてもらい支えてもらっていました。これからは私が誰かの役に立てるようにがんばっていきます。（子どもの家）

■支援金をたまわりありがとうございました。大学生活は何かとお金がかかるので、本当に助かります。皆さまの温かいお気持ちに、心より感謝申し上げます。（南海少年寮）

■春から大学に進学します。公認会計士を目指そうと考えています。充実した学生生活を送りたいと思います。たくさんの寄付をしてくださっていることのありがたみをとても感じております。（誠慈学園）

■みなさまからの温かいお気持ちは今の自分にとって大きな力になりました。支えてくださる方がいることを知り、とても心強く前を向いて進んでいこうという思いがあらためて湧いてきました。ご厚意に感謝しながら一歩ずつ自分の道を大切に歩んでいきます。（光明童園）

■4月から児童養護施設の職員になるために専門学校で勉強しています。慣れないことが多く、1日があっという間に終わってしまうように感じています。いただいたお金は授業料などに充てたいと思います。理想の先生になるために、この2年間を大切にして、有意義なものにしていきたいと思います。（湯出光明童園）

### 在園生

■ぼくは園に長くいます。いつも助けていただいて、ありがとうございます。ぼくは虫が好きなので、虫に関する物を買いたいと思います。本当にありがとうございました。（金城六華園）

■1万円の支援金ありがとうございます。高校生になってお金を使うことが多くなったのでとても助かります。大切に使います。（龍山学苑）

■希望をしていた高校に合格し、4月から通っています。小学生から続けているバスケットを、バスケ部に入部して続けていきます。もちろん、将来のためにも勉強も頑張り、いろいろな資格も取りたいと思います。毎年、たくさんの応援と支援をしてくれてありがとうございます。皆さんの期待を裏切らないように3年間がんばっていきます。（鷹巣学園）

### 全養本派クラブ加盟園

- 栃木県真岡市・あかつき寮
- 福井県大野市・皆生慈童苑
- 名古屋市守山区・金城六華園
- 大阪府東大阪市・生駒学園
- 同吹田市・大阪西本願寺常照園
- 同茨木市・子どもの家
- 山口県防府市・防府海北園
- 同周南市・共楽養育園
- 高知市・南海少年寮
- 福岡県大任町・誠慈学園
- 佐賀県基山町・洗心寮
- 熊本県水俣市・光明童園
- 同・湯出光明童園
- 熊本市北区・龍山学苑
- 大分県玖珠町・鷹巣学園

**児童養護施設**…児童福祉法に定められた児童福祉施設の一つ。さまざまな事情により、家庭で生活することができない2歳からおおむね18歳の子どもたちの、家庭にかわる生活の場。社会の一員として自立できるように、子どもたちを援助育成している。

洗心寮

共楽養育園

## お礼のことば

全養本派クラブ会長　堀　浄信（熊本・光明童園理事長）

このたびは、浄土真宗本願寺派全国児童養護施設連絡協議会加盟施設で暮らす子どもたちへ、ご寄付をたまわり、誠に有り難うございました。みなさまからのご支援も６回目（６年目）を数え、子どもたちもとてもよろこんでおります。

児童養護施設とは、児童福祉法第41条に掲げられている「保護者のない児童（乳児を除く。ただし、安定した生活環境の確保その他の理由により特に必要のある場合には、乳児を含む。）、虐待されている児童その他環境上養護を要する児童を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする施設」です。

施設の目的は、大きく２つです。「いのちの保障」と「自立の支援」です。子どもたちが安心できる生活を担保しながらも、いつか社会に旅立つ子どもたちの自立を念頭におきながら、支援をしています。

自立とは、「自分ひとりで何でもできるようになる」ことではなく、「優れた依存」です。人は、決して１人では生きていけません。誰かに助けてもらいながら、支えてもらいながら生かされています。その意味では、「適切なタイミングで、適切な人に、『助けて』と言えること」です。

本当に困ったときに、「助けて」と言えるようになるためには、「『助けて』と言ってよかった」、「助けてもらえた」という経験の積み重ねが大切です。そして、子どもたちにとって「自分は支えてもらっている」という安心の実感が大切になってきます。

安心は、すぐには育まれません。特に施設には、不安で孤独な生活を強いられた子どもたちが多くやってきます。私たちの想像を超えたものを抱えていることもあります。そんな子どもたちが安心を得られるように、施設でもさまざまなことに取り組んでいますが、なかなか力及ばず、反省の毎日です。

そんな中での、みなさまからのあたたかなご支援は、子どもたちにとって、とても大きな安心につながっています。子どもたちからのお礼の言葉にあるように、会ったことはないけれど、直接目にしたことはないけれど、自分たちを応援し、励ましてくれる人がたくさんいること、「決してひとりぼっちではないこと」が、間違いなく子どもたちに伝わっています。

このたびのご縁は、これからの彼らの人生の糧になっていきます。共に支え、応援してくださり、誠にありがとうございます。あらためて、心より感謝申し上げます。

## 赤光白光

1966年から始まったテレビ番組「ウルトラマンシリーズ」。当時は幼稚園児だったが、巨大な怪獣を、ウルトラマンが奮闘の末に撃退する姿にすぐに夢中となった。

▼その後も、次々と続いたウルトラマンシリーズ。ビルや人家などが建て込んだ市街地で怪獣と格闘することも多かった。怪獣らによる街の破壊を食い止めようとするウルトラマンらは、戦いの中でビルや高速道路などの建造物を壊してしまうこともあったが、当時は、そうした街の破壊もこのドラマには必要なシーンだと思っていた。

▼高校生の時、教科書でその思いを根本から否定する文章に出会った。1973年発刊の雑誌「世界」（岩波書店）に掲載された作家・大江健三郎さんの「破壊者ウルトラマン」という文章。ウルトラマンも結局は怪獣と同じ、その巨大な力で街や自然環境を破壊しており、ドラマでは破壊された街や環境の復興には言及していないと批判した。

▼その文章には、少年時代のヒーローが怪獣らと同様に「破壊者」と指摘されたことへの違和感しか残らなかった。しかし年を重ねた今、ウルトラマンと怪獣との戦いで破壊された街がその後にどうなるのか、ちゃんと復興されるのかという大江さんの指摘が頭をもたげてくる。ドラマの中とは言え、物や自然が壊され、傷つけられる場面を無批判に受け入れていた自分の中にある、正義の名の元の「破壊者」という黒い影を知らされた。


購読料 1部120円(年間4,080円)　定期休刊 7月10日、12月10日
浄土真宗本願寺派　代表電話
宗務所 075(371)5181／大谷本廟 075(531)4171

宗派公式Webサイト　https://www.hongwanji.or.jp
本願寺ホームページ　https://www.hongwanji.kyoto



新刊のお知らせ

漫画『釈尊の弟子』　ありたに けんゆう 著
『一味』誌に十四年間連載したマンガを一冊に。『仏説阿弥陀経』に出てくる十六人のお弟子方のエピソードを通して、お釈迦さまの教えにふれる。
定価 一四三〇円（税込）

宗教のトリセツ ～現代の宗教観～　天岸 淨圓 著
浄土真宗立教開宗八〇〇年にあたり、法然聖人の浄土宗開宗の意図をうかがう。また、現代日本の宗教状況、宗教とは何かを通して仏教者の課題を問う。
定価 八〇〇円（税込）

おそだて　山本 攝叡 著
ご自身の生涯、思い出をふりかえり、仏法の「おそだて」をよろこぶ。後半は『一味』誌に掲載した五つの短編をまとめたものを紹介。
定価 五〇〇円（税込）

本願寺ブックセンターでも購入できます。

～季刊誌『一味』～
浄土真宗のご法話、お経の解説、マンガ、コラムなど、多くの方に読んでいただける内容です。
年間購読や贈呈、お彼岸、お盆、報恩講、永代経法要などの施本にどうぞ。
年間購読 1,400円(年4回・送料・税込)【10部～150円・50部～100円(送料別・税込)】

一味出版　〒569-0811 大阪府高槻市東五百住町3-4-17 行信教校
☎072-694-8004　FAX 072-694-1408
https://www.gyousin.com　(E-mail) info@gyousin.com

法藏館　https://pub.hozokan.co.jp

目からウロコの仏教入門
ケネス・タナカ【著】 鴻野立明・菅原 建【訳】
アメリカ流儀で学ぶと、仏教はこんなに楽しくわかりやすい！　海外で話題の入門書が、日本版として登場！
二、二〇〇円

ストレスに効く　仏教の話
本間大智【著】
ストレスを減らす智慧がつまったブッダの教えを21世紀にヴァージョンアップ。親しみやすい題材からわかりやすく丁寧に説いた法話集。
一、六五〇円

統一教会・現役二世信者たちの声 ―壁の向こうの言葉を聴く
瓜生 崇【著】
高額献金や銃撃事件のその裏で、教団改革を望み声をあげてきた二世信者たちがいる。教団と世間との狭間で揺れる9人の声を収める。
一、九八〇円

近刊
この道は、いつかゆく道 ―浄土への感性
清基秀紀【著】
学生相手に長く仏教学を教えてきた著者が、仏教にふれることの少ない人たちへ向けてわかりやすく伝える、法話エッセイ集。
一、四三〇円

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入ル　TEL 075-343-0458　FAX 075-371-0458
表示価格は全て税込　新刊メール配信中！　お買上16,500円(税込)以上送料無料

探究社　https://www.tankyusha.co.jp

お寺と家庭をつなぐ法話の便り
よろこび　お盆
執筆者　斯波 徹真／浄土真宗の風景 三上 章道／前田 壽雄／蓮如上人ゆかりの地 近松 真定／目連尊者と盂蘭盆会
150円　※100部以上のご注文で割引有

新装改訂版
癌告知のあとで
B6判並製・248ページ　1540円
ガンと告知され、その衝撃を乗り越えて病気と闘う当時四十六歳の坊守が病床より書き綴った心の軌跡の書であるとともに自分自身の病状を冷静に観察し、その思いを詩と短文で客観的に表現した感動深い書。

2026（令和8）年版
お念仏のこころをはぐくむ
ほのぼのカレンダー
A3判・タテ42cm×ヨコ29cm　1部150円
2026（令和8）年版『ほのぼのカレンダー』が間もなく完成予定です。例年通り、故東井義雄先生のお言葉を標語とし、毎月の画と文字は故谷内正遠先生の版画となっております。
また、標語の解説書となる小冊子も1冊110円で発売予定です。
さらに今年は寺院名等を印刷されている方にはもれなく、されていない方には50部以上のご注文で「お念仏のこころをはぐくむ　ほのぼのカレンダー」の文字入りクリアファイルをプレゼントさせていただきます。

〒520-0027 大津市錦織2丁目9-30-101
TEL 077(599)4201　FAX 077(599)4220
【e-mail】post@tankyusha.co.jp　【表示価格は税込み】

最新刊
鏡如上人(大谷光瑞)及び籌子裏方年譜
赤松徹眞編　定価15400円（税込）
本年譜は、本願寺教団の管長・宗主として多角的な視野と構想により教団を統率・運営し、内閣顧問などにも就任した鏡如上人（大谷光瑞）と、総裁として各地の仏教婦人会の結成や活動に尽力した籌子裏方の事績を編纂したもの。

東西本願寺120のちがい
鎌田宗雲著　定価3300円（税込）
主に前半は、東西本願寺の組織・寺紋・荘厳・勤式・作法など一二〇項目のちがいを紹介する。後半は、歴史的な視点も踏まえて東西本願寺のちがいに着目し、主にお東騒動に関して時系列で振り返りながら解説する。

値遇のこころ
川添泰信著　定価1100円（税込）
本願寺の新報、または小冊子や、大学における掲示伝道の標語の解説などをまとめた法話集。主な内容として、お辞儀と礼拝／握手と合掌／「僭越」と「ジョーク」／蜘蛛の糸／安穏の未来／浄土真宗のお彼岸／この世にて／など。

永田文昌堂　600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入　TEL 075-371-6651　FAX 075-351-9031